

玉紫陽花

2010.8.19

荒木 亨

毎朝のウォーキングを初めて4年目、良く続いていると自分自身を褒めてやっています。それにしても今年の夏の暑さはきびしいものを感じます。

8月、玉の汗が噴き出るような猛暑日、ウォーキングは体を気遣いつつも続けることに意義があると自分を励ましてがんばっています。

しかし、野火止用水沿いのウォーキングは、他の場所と違い土の歩道が多く、雑木林を吹きぬける風が心地よく、多くが木々に囲まれているせいか他の場所と比して2～3度ほどは気温が低く感じられます。その上、自生している野火止用水沿いにひっそりと咲く玉紫陽花が、暑さでなえたウォーカーの気分を癒してくれます。

この玉紫陽花は、額紫陽花の一種ですが、ピンポン玉より一回り小さい玉のような蕾をつけることから「玉紫陽花」と呼ばれています。ふつうアジサイは6月ですが、この玉紫陽花は7月中旬から蕾を付け8月に咲き競います。

玉紫陽花の群生は珍しく、野火止緑道の野火止公園から平林寺裏手（西分橋から約300m上流部）にわたる場所一帯に咲いています。

夏、野火止用水に咲く花が少ない時期（9月になれば彼岸花が咲き始めます）、貴重な花達です。

野火止用水は、春夏秋冬いつも異なる顔を持っていて、そこをウォーキングするものには、いつも新鮮な楽しみを与えてくれます。

この野火止用水の貴重な自然を皆で守っていききたいものです。

